

平成25年11月18日に厚生委員会を開催し、所管する事務事業の調査を次のとおり行いました。

## 新たな地域組織の構築と一括交付金制度について

### ～内容～

当局が、新たに予定している一括交付金制度について、当局から次のような説明があり、調査を行いました。

- ・現在の補助金・交付金制度は、目的を持って上限幾らという制度であるが、一括交付金制度を始めることによって、その地域に合ったようにお金を使っただけになるというのが、この制度の趣旨である。
- ・一括交付金の交付は小学校区単位を考えている。
- ・平成25年11月12日現在で、6小学校区で全体説明会を開催済みであり、このうち5小学校区で、地域づくり協議会をつくる方向で進行している。また、5小学校区については、今後説明会を開催する予定であり、1小学校区については、説明会を開催するために調整中である。

### ～質疑～

問：説明会はいつからはじめて、どれくらいの進捗状況か。また、説明会で、どのような質問をいただいているのか。

答：説明会は、早いところでは平成24年度から始めており、本格的に行うようになったのは、平成25年度5月頃である。

進捗状況は、6小学校区で、平成26年4月1日からスタートするという話がある。また、説明会で多いのは、「一括交付金制度を始めると、職員はかなり削減できるのではないか」という質問である。この質問に対しては、「一括交付金制度を始めても、事業をやめる訳ではないので、基本的に職員は減らない。事業が軌道にのり、自助、共助していけば、職員の手も離れるかもしれない」とお答えをしている。

問：地区の役員から、いろいろな充て職があり、非常に負担になっているという話を聞く。使い道を自由にとっても、役員の方の負担がさらに増えることになるが、どのように説明をしているのか。

答：地域づくり協議会を結成することにより、役員の方の負担やどのようなお金が出ていくかを皆さんに知っていただきたいと思う。負担は一旦増えるが、将来のことを考えると、この地域づくり協議会は、必ず必要と考えている。

お金の配分については、1年目は難しいと思う。今までの配分でということになるかもしれないが、まず、そこから始めて、何年かかけて、地域づくり協議会が地域のた

めのものとして機能できるように、我々も一緒になってやっていきたいと考えている。

問：とりあえず平成26年4月1日からスタートしたい、とのことであったが、総社地区や常盤地区は、まだ説明会も開催していない。そのような段階で、仮に、これらの地区が4月1日にスタートできないということになっても、この制度は開始をするのか。

答：全ての地区で、4月1日にスタートするということは、できないかもしれない。地域づくり協議会が組織できたところから開始したいと考えている。

問：できる地区から始めていくとのことだが、本市の重要な施策として、市民の方に説明がつくのか。用意を周到にして、市民の皆さんに、平等にスタートすべきではないか。

答：理想は、全ての地区でスタートするのが良いと思うが、例えば、総社小学校区のような大きな地区では、調整が非常に難しい。組織づくりが進行中の小学校区においては、自分たちのまちを育てていくチャンスだと言ってくさっている。この一括交付金制度を上手く利用していただければと思うので、できる地区からスタートしていきたい。

問：来年の4月1日からスタートということで、なぜ、このように急ぐのか。急ぐ必要はないのではないかと。各地域ともっと話をすべきで、それを省略すると、地域がもっと大変になり、格差もでてくるのではないかと。

答：決して省略しているつもりはなく、1、2度の説明会で終わりというような話をしていない。できるまでお話をさせていただくという形で進めているので、ご理解をいただきたい。

問：地域づくり協議会が組織できた地区には、一括交付金を支払うということだが、できていない地区については、今までどおりの制度でいくのか、どのように考えているのか。

答：組織づくりができなかった地区については、現行の補助制度を残さざるをえないと思っている。できれば、平成26年度中には、一括交付金制度に切り替えていただくよう話をさせていただきたい。

～自由討議～

- ・一括交付金制度について、説明会を行っていない地域がある中、どんどん進めていくことについてはいかがか。行政は、各地域に説明責任を果たすべきと考えるので、もう1年くらい延ばしてもよいのではないか。その1年以内に、行政が説明責任を果たすべきではないか。
- ・平成26年4月1日スタートについては、熟慮する必要がある。担当職員がいろいろなことをサポートするシステムを作っていかなければ、お金だけ渡して、従前と一緒にということになりかねず、意識は深まらない。
- ・全市的にスタートできれば一番よいが、既に一括交付金制度に向けての活動をしている地域に対して、もう1年待ってくださいと言うよりは、開始できる地区からスタートしてもよいのではないか。
- ・一括交付金だけに限らず、コミュニティの中でいろいろな話をしていくことは大変良いことだと思うので、スタートできる地区はスタートした方がよいのではないか。
- ・非常によい制度だと思うが、各地域による格差が生まれるのではないかと思う。この計画自体が早急すぎると思う。
- ・平成26年3月末までに、残りの地区もできるかもしれないので、いましばらく様子を見てはどうか。

議員間で、上記のような意見が交わされました。

## 雪舟くんのデザインについて

### ～内容～

総社市新生活交通「雪舟くん」が大変好評であり、平成 23 年度から現在まで、数多くの視察がありました。

今回、総社・総社雪舟・高梁・新見の4ライオンズクラブから、雪舟くんの新たなデザインに使ってほしいということで寄附をいただき、そのお金をもって、一流の風格あるデザインへ、全国に発信できるデザインへ変更をさせていただきたいという旨、当局から説明があり、このことについて、調査を行いました。

### ～質疑～

問：「子育て王国そうじゃ」ということ、また、岡山県立大学との協定もあることから、岡山県立大学にデザインをお願いしてはどうか。

答：観光プロジェクトで、統一したデザインが必要という検討がなされ、商店街筋の、のれんのデザイン等をお願いした経緯から、その方をお願いしたいと考えている。また、全国から視察が来ていることから、ネームバリューがあるこの方にと考えている。

発言：全国に誇れるというのは分かるが、雪舟くんが全国に誇れるから、このように視察がたくさん来られるのであって、デザインを誇る必要はない。

雪舟くんの利用率がどんどん下がっているとか、車両を 10 年、15 年使って古くなったので、デザインを変えたいということで、考えるべきである。雪舟くんが始まってまだ 2、3 年であり、現在のデザインは分かりやすく好評である。

問：岡山県立大学にデザインをお願いするのは大変良いことだと思うが、当局が考えている方から、変更は可能であるのか。

答：まだ契約をしていないので変更というものではないと思うが、寄附をいただいた趣旨に、一流、風格という部分を言われていることから、できれば現在考えている方をお願いをしたい。

問：4ライオンズクラブから寄附をいただいたとのことだが、目的以外には使用できないのか。

答：指定寄附金であり、このことに使ってくださいという寄附であるので、この目的に使わせていただくことになる。

問：この方にデザインを発注する場合、何か条件は付けるのか。

答：デザインをお願いする方がどなたであっても、例えば事業者名を必ず入れるとか、こういう機能は考えていただきたいという条件は言わせていただき、2 案若しくは 3 案を作ってもらえばと考えている。

## 総社市国民健康保険健康推進奨励金について

### ～内容～

国民健康保険事業の健全な運営を図るため、その運営の健全化に貢献し、積極的に健康の推進に努めた世帯に、総社市国民健康保険健康推進奨励金を、平成 26 年度から支給しようという制度について、当局から説明があり、調査を行いました。

### ～質疑～

問：支給要件の中に三つの要件がある。その中で、40 歳以上の被保険者がいる場合、特定健康診査を受けないといけないとあるが、対象者がいない場合、支給はされるのか。

答：特定健康診査を受けるのは 40 歳以上からになるので、39 歳以下の方だけの世帯では受けることはできない。対象者がいない場合は、これを受けたとみなして、1 万円の支給はさせていただく。

問：この制度を始めるにあたり、大体どれくらいの方が対象になると考えるか。

答：24 年度の対象者からの推定であるが、現在の優良世帯表彰の特定健康診査受診率約 8%が、市の受診率 27%並みになると仮定すると、大体 140 世帯が対象になると考えている。

その他に、次の事項について、当局から説明を受けました。

- ・総社市医療費適正化推進委員会こども部会報告書の概要について
- ・風疹ワクチン接種の公費助成について